

平成 23 年度

第 11 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 平成 23 年 11 月 16 日（水）午後 1 時 30 分～
午後 2 時 35 分

○開催場所 米子市水道局大会議室

○出席者

委員（敬称略）：住田篤美・大西喜久子・野田親弘・藤江敏子
前田香代子・小林幸子・中嶋紀恵・和田季子
石倉恵子

欠席者：矢野孝雄・永見新一・松田葉子・小椋あけみ

米子市水道局：植田水道事業管理者・大縄次長兼計画課長
森上次長兼総務課長・本田次長兼水質管理課長
山柘次長兼境港営業所長・小野川営業課長・八幡
施設課長・山中給水維持課長・江原浄水課長・藤
井主査兼浄水課水源管理係長・金田総務課長補佐
兼会計係長・湯崎総務課主幹・事務局

○日程

1 議題

(1) 平成 22 年度米子市水道事業会計決算状況について

(2) 米子市水道事業基本計画第 1 次検証委員会報告について

2 その他

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数（報道関係者を除く）
0 人

○会議資料の有無
有り

○お問合せ先
米子市水道局計画課企画調査係（TEL. 0859-32-6112）

◇平成22年度米子市水道事業会計決算状況について◇

○金田課長補佐

平成22年度米子市水道事業会計決算状況について、資料の決算書で説明する。

はじめに、水道料金を主な収入とし、人件費や動力費等を支出する単年度で処理する収益的収支の説明をする。

収入決算額は3,529,189,272円で、主なものとしては給水収益が前年度と比較し約6千4百万円の2.1%の増収により、収入全体としては約3,500百万円の増収となっている。

主な要因としては、夏場の猛暑での使用や、年末からの豪雪による融雪や凍結防止としての使用により配水量が増えたものである。

次に、支出決算額は3,061,823,516円で、減価償却費などの減少により、前年度と比較し約1億2千6百万円の4.1%の減額となっている。

この結果、当年度の純利益は、447,725,847円で、前年度と比較し約1億6千万円の増額となっている。

次に、多年度に及ぶ水道事業に係わる資本的収支の説明をする。

収入決算額は396,614,419円で、主なものは、企業債収入として老朽管更新事業等により1億9千万円の借入れ、また、国庫補助として老朽管更新及び、災害対策事業に伴い、約1千7百万円の収入となっている。

また、本体工事の遅延による工事1件及び配水池設置事業を繰り越しとしたため、その財源である企業債3千5百万円及び、工事負担金1千5百万円を次年度に繰り越すこととした。

支出決算額は1,619,134,861円で、主なものとして、建設改良費の6億8百万円、企業債償還金に10億1千万円を支出している。

資本的収支の不足額は、当年度分損益勘定留保資金、繰越利益剰余金等で補填している。

この結果、次年度繰越利益剰余金は、前年度より約1億2千4百万

円増額の 801,647,169 円となった。

最後に、平成 22 年度予算に関連する実施事業について説明する。

引き続き災害対策を初めとする維持管理に重点をおいて、老朽管更新などの配管網整備及び、新配水池事業においては基本設計業務委託の発注をおこなったところである。

<質疑なし>

◇米子市水道事業基本計画第 1 次検証委員会報告について◇

○大縄次長

資料の写真は、現時点での基本計画での完成イメージ写真である。

手前側が容量 1 万 6 千 m³ の中央配水池で、奥側は当初計画にはなかったが、検討した結果、中央配水池と同時設置した方が効率がいいだろうと判断し今計画に入れた、容量 1 千 5 百 m³ の南部配水池である。

通常タンク形状は円形だが、プロポーザルで技術提案を頂いた中で、土地を有効利用する観点から、形状を矩形(くけい：長方形)として材質はステンレスである。

当初は、用地取得から建設着手を、平成 23 年、24 年としていたが、遺跡調査等があり費用もかかることから、2 年程度ずれている状況である。

現時点での事業予定は、平成 24 年の中後半に開始し、平成 27 年に完成、平成 28 年には供用開始できると考えている。

水道局庁舎建設の関係についてであるが、平成 7 年の阪神大震災の後及び平成 12 年の鳥取県西部地震の後、2 回の耐震診断をした結果、倒壊の恐れのある建物であることが判明しており、建て替えの予定をさせていただいているところである。

新配水池建設のずれにより、庁舎建て替えは、当初予定の平成 25 年建設開始を 2 年遅れの平成 27 年に変更させていただく。

最後に水源地関係だが、福井水源地と西尾原水源地について、当初はリニューアルが必要であり、福井水源地に新水源を求めたが、量、質共に確保できず断念した。

現在、新たな水源開発に向けて努力を行っているところである。

日下水源地、河岡水源地、水浜水源地については、診断の結果更新が必要となったため、平成 30 年から平成 32 年の更新計画として新たに追加とした。

配水池は危機管理体制の一つの強化策として進めるが、車尾水源地も老朽化が進んでいるのが現状であり、更新を含む耐震化強化となる。

以上、事業についての大きな変更点と追加点を説明した。

○小野川課長

水需要と財政計画について説明する。

まず、行政区域内人口について、当初計画では平成29年度も19万人を維持すると見ていたが、既に平成21年度で19万人を割込み平成29年度は18万6千人と予測した。

給水人口については、行政区域内人口とほぼ同じ推移と見ている。

給水戸数は、当初計画では右肩上がりの予測だったが、米子市の総合計画でもそうだが平成26年度をピークに下がるという見込みとした。

有収水量は、一日平均有収水量である。これについては、節水機器の普及や節水意識の定着、また大口需要者の工業用水転換などにより、使用量が急速に低下してきている。

使用を用途別に、一般家庭や学校、病院等10に分類し、一般以外は近似曲線によって求めた。全体の約7割が一般であり、一般については、水洗トイレや洗濯、また風呂等12に分類し、それぞれの節水機器の普及状況等を推計して予測した。

最終的に平成29年度には、5万6千8百 m^3 と予測している。

続いて、財政関係について説明する。

給水収益については、用途ごとに有収水量に平均単価をかけて求めた。各年度当初計画より1億円以上減収となる。

起債額は、当初は、平成27年度以降は予定事業が少なく、補填財源でまかなえるため起債を入れていなかったが、遅れ気味である事業の見直しにより、庁舎建設の先送り等で平成28年度には約20億円の起債が発生する。

企業債償還額については、5年据置返済で5年間は利息だけを支払うため、平成24年度起債分は平成30年度から元金返済が始まるので、基本的には変わらない状況である。

利息については、利率の見直しを行った。当初計画では平成24年度まで3%、平成25年度以降は4%で算出していたが、今回の見直しで、平成24年度までを2.5%、平成25年度以降を3%に修正した。これは、平成10年度頃からほぼ2%前後を推移していたが、策定当初の平成19年度で2.4%に上がったため上昇傾向にあると予測して余裕を持たせた設定であったが、平成20年度から平成22年度で1.9%から2.1%に落ち着いたため平成24年度頃までは維持すると予測した。それ以降の経済状況は予測できないが極端な変動は

考えにくく3%とした。

そのため、当初計画とほぼ変わらない状況である。

純利益、繰越利益剰余金については、給水収益が減少傾向にある中で、平成24年度から純利益が上昇しているが、これは今まで収益的支出だったφ50mm以下の配水細管を、平成24年度から資本的支出で見るため、純利益が約1億円の増額となるためである。

平成28年度に純利益がマイナスになるが、繰越利益剰余金が5億円程度あるので、すぐには料金改定の必要はない。

現時点での計画では、平成33年度に繰越利益剰余金もマイナスとなり、約12%の料金改定が必要となる。

今後、決算値、事業費の変更等に応じて適宜見直しを行う。

<質疑>

○藤江委員

人口減少の予測であるが、給水収益が厳しい状況にあるという感想を持った。

○大西委員

配水池タンクの形状が、円形でなく矩形を採用する説明があったが、用地の有効利用だけなのか。

○大繩次長

タンクを分割する事へのメリットがある。タンクは清掃等のメンテナンスや維持管理上の観点から、中央配水池は4つに、南部配水池は3つに分割する予定であり、円形は中に円形を作る事となり構造上の限界とコストアップにつながる一方、矩形は材質がステンレスであるため任意に分割できる。

また、ステンレス鋼板製は溶接等による修理が容易である。

○大西委員

今後は全て矩形のタンクとなるのか。

○大繩次長

1万6千m³の規模の設置は頻繁にないが、技術的に問題ないと考える。

○野田委員

耐久性はどうか。圧力の関係は問題ないのか。

○大繩次長

タンクの内側から引っ張る構造となっており、強度的には問題無い。

○野田委員

収益は減る。水の利用者は減る状況の中、水道料金値上げは大丈夫

という説明を受けて安心したところだ。

職員の皆さんの努力の賜物である。

○中嶋委員

子供を連れて子育て支援センターに通っているが、そこで水の話ができる事があるが、水に対する知識が非常に低いと感じる。

そのような方々に、水道局の方が水についての説明をされるという事は可能なのか。

保育園児や父兄の皆さんに、「地域の水が全国と比較してどうなのか」といった、専門の方から説明をしていただく事は大切だと思うので、是非お願いしたい。

○植田管理者

早速対応したい。

○大縄次長

言っていたければ相手に合った職員を派遣する。

○八幡課長

以前に出前講座を何回かさせていただいたが、対象者は小学校の3、4年生位じゃないと、なかなか理解できない部分もある。

○藤江委員

直接見学も可能なので、とても理解しやすい。

○住田会長

市の監査委員をさせていただいているが、市民の皆さんが喜んでいただける水道事業をお願いします。

○藤江委員

この頃、ペットボトルの需要が高まっている。確かに災害時には良いが、米子の水道の美味しさをPRする地道な努力をされたい。

◇その他◇

○大縄次長

審議会委員の皆様は、本年11月30日をもって、任期満了となりますが、米子市水道事業審議会条例第3条第4項に基づきまして、是非再任いただきたく、お願いします。

《承諾する》

○大縄次長

後日、会議録と併せて承諾書をお送りする。